■　学校の共通目標

学力向上のための重点プラン【小学校】　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　新宿区立余丁町小学校

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **授業づくり** | 重　点 | 学習過程の各段階に適した「学び合い」の場を工夫して設定し、一人一人  の参加を図るツールを工夫し、学びの共有化と深化を図る。 | 中間評価 | 校内研究を通して、「学び合い」の意図的設定について理解が深まり、日常の学習にも反映されてきている。 | 最終評価 | 「学び合い」を中心に授業を展開する中、課題を練り合いながら問題解決する姿が多くみられ、学習意欲につながっている。 |
| **環境づくり** | 多様な交流の場を設定し、相互評価等、児童相互がよさを認め合い高め合う活動を工夫し、支持的風土を醸成する。 | 異学年交流の場を増やしたり学習の振り返り場面で交流のよさを評価したりと意図的な指導を展開している。 | 学校全体でユニバーサルデザインを意識した環境づくりを検討し、学年が変わってもスムーズに適応できるように計画実践している。 |

■　学年の取組み内容

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **学年** | **教科** | **学習状況の分析（10月）** | **課　題（10月）** | **改善のための取組み（10月）** | **最終評価（２月）** | |
| １ | 国語 | ・学習意欲が高い児童が多いが個人差がある。  ・「話す」ことに関しては抵抗なく話している児童が多く、身近なことを伝えたり、話型を用いて発表したりする経験を通して、話したいことを見t付け、他の人に伝えることができるようになりつつある。「聞く」に関しては、教師の意識付けが必要な児童がいる。  ・想像を広げて物語を読むことや、文の構成に気を付けながら説明文を読むことに慣れてきた。  ・字形に気を付け、平仮名・片仮名・漢字の練習に丁寧に取り組んでいる。 | ・意欲が持続しない児童への支援が必要である。  ・「いつ・どこで・だれが・なにをどうした」などを具体的に話ができるよう意識付けが必要である。  ・興味をもって話し手の話を聞く態度を育てたい。  ・内容を理解しながら聞くことを身に付けさせたい。  ・文の中で正しく漢字を使ったり、言葉の決まりを用いたりすることができるようにさせたい。  ・書くことに慣れてきたことによって字形が崩れることがあるので、引き続き丁寧に書けるように意識づけさせたい。 | ・児童が、今、何にどのように取り組むかをしっかり理解できるように、明確に課題を示す。  ・話し方と聞き方のポイントを示し、共有させる。  ・自分の考えや意見を発表できる場面を増やし、誰もが発表できる雰囲気作りをするとともに、発表力を付けさせる。  ・丁寧に書けている字に関して、自分で意識できるようにする。 | ・ICTを活用し、ノートやワークシートの使い方を具体的に示すことで、支援が必要な児童の理解が進み、学習への意欲が高まった。  ・スピーチや日記などを通して、話すことや書くことで自分の考えや思いを表現することにすすんで取り組む児童が増えた。内容に関しては、具体的に話したり書いたりする指導が必要である。  ・友達の考えや発表を聞き、感想を述べたり、自分の考えと比べたりすることができるようになってきた。  ・話すことには慣れてきたものの、文章にして自分の思いを表現することは、不十分である。既習の漢字を用いることや、助詞の使い方、句読点やかぎの使い方等も含め、継続して書くことの指導が必要である。 | |
| 算数 | ・ゲーム的な要素を持った活動（計算・形遊び）に特に意欲的に取り組む。 ・ICT機器を使って、計算の仕方についての情報を視覚的に与えることで、理解が深まった児童が多い。  ・繰り上がりの足し算や繰り下がりの引き算に習熟しつつあるが、計算の速さに個人差がある。  ・形遊びや計算ゲームなど、協同的な学習に仲良く取り組む。 ・計算の仕方を絵や図、文章などで表現できる児童が増えてきた。 | ・繰り上がりや繰り下がりの計算では、既習事項と今の学習が混同してしまう児童がある。繰り返し計算練習をし、理解を確実にする必要がある。  ・文章問題で立式するのに必要な情報を読み取る力に差がある。 ・自分なりの考えをノートに表現できる児童は増えたが、それを説明することに関しては個人差がある。 | ・１０の合成分解の反復練習を継続する。  ・児童が意欲的に取り組むことができるよう、ゲーム的な要素も取り入れた計算練習を継続・反復して行う。 ・ICT機器を積極的に活用し、理解を深められるようにする。  ・立式して解くだけでなく、問題文を作成することで、文章題の構成に気付かせる。 ・繰り返し自分の考えを説明する活動を繰り返し、友達の考えを知ることで自分自身に生かすことができるようにしていく。 | ・３分間テストや宿題を継続して計算練習を行ったことにより、１０の合成分解やたし算・ひき算を定着させることができた。  ・ICT機器を活用し、計算の仕方を動きをつけて説明したことで、理解が深まった。視覚的に捉えることの有効性を感じた。  ・自分の考えをノートに表現し、説明する活動を繰り返し行ってきた。徐々にやり方に慣れ、楽しんで考えを書くことができた。書くことが好きになった児童が増えたこととともに、理解が深まった。  ・問題文を読んで問題の意味を正確にとらえることにはまだ課題が残る。文章を読み取る力を国語等の授業でも高めていく必要がある。他教科の連携しながら、児童の文章読解力や問題を把握する力を伸ばしていくことが求められる。 | |
| **学年** | **教科** | **学習状況の分析（４月）** | **課　題（４月）** | **改善のための取組み（４月）** | **中間評価・追加する取組み（10月）** | **最終評価（２月）** |

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ２ | 国語 | 学学習意欲が高く、進んで考えたり発言したりする児童、発言はしないものの話をよく聞く児童がいる一方で、課題への集中が足りず理解が追い付かない児童がいる。漢字学習への関心が高く、普段から習った漢字を使おうとする姿勢が見られる。  音読に進んで取り組むが、物語文や説明文の読解では、叙述に気を付けて大事なことを読み取ることができる児童と、そうでない児童に分かれる。書くことについては、身近な出来事を書くことに少しずつ慣れてきたものの、継続した取り組みが必要である。 | 学・漢字への関心は高く、言葉や短文作りに意欲的だが、正しく丁寧に書くことが定着していない児童が多いこと。  ・漢字学習の時間以外でも字形に気を付けて書くこと。  ・文を読むときに、言葉のまとまりを捉えて音読ができるようにすること。  ・物語文や説明文を読んだときに、書かれていることの大体を理解し、分かるように説明したり表現したりすること。  ・身近なことの中から、書くことの題材を見付けること。 | 学・漢字の成り立ちや由来などにも触れさせ、関心を高める。書くときの字形のポイントを明確に示したり、日常から丁寧に取り組んでいる児童を称賛したりするなど、意欲を継続させる。  ・音読練習を家庭学習とし、毎日取り組ませる。音読発表を多く取り入れ、児童同士が聞き合う場面を設定する。  ・物語では場面分けを、説明文では問いと答えを明確にし、何が書かれているのかを理解させる。教科書の本文に着目させ、叙述を大事に読み取らせる。  ・題材が見付けられない児童には例示したり、時には例文を示したりして、モデルとなるいろいろな書き方に触れさせる。  文を書くことの経験を多く積ませる。 | 学・漢字への関心が高まり、漢字の学習方法が定着した。丁寧に学習している児童を認め、定期的に小テストを実施したり、指導の工夫をしたりしたことが、児童一人一人の意欲を高め、取り組みを継続させることにつながった。  ・教科書の文や詩など、様々な文章に触れ、声に出して読む機会を意識的に設定したことで、すすんで音読練習や発表に取り組む児童が増え、活発に交流するようになった。  ・叙述に着目して読み取ることができるようになりつつある。  ワークシートを工夫したことが効果的であった。  ・日記の取り組みや、お話作り、行事や読書の感想文など文章を書く機会を増やしたことで、構成を考えて文章を書くことに慣れつつある。理解が進み、書き進められる児童がいる一方で、書きたいことを整理することが難しい児童もいる。  短冊やワークシートを用いて指導していく。 | ・新宿区の学力調査では、国語の正答率は８４．２％と、全国を１．４ポイント上回っているものの、区より１．１ポイント下回っている。  ・観点別に見ると、「書く能力」の正答率が全国、区ともに上回っている。  ・課題は、全国、区ともに２～５ポイント近く下回っている「話す・聞く能力」を付けさせることである。  ・読**書**の機会を増やすなど、読み物を読む機会を増やし、言語活動を広げる。既習漢字は普段から使うよう指導する。  ・話を聞いたり話したりするときのポイントを押さえ、大事なことを聞き取ることや分かりやすく伝えることを普段から意識させるようにする。  ・導入を工夫し、学習課題を明確にするなど、児童の学習意欲を引き出し、学習のめあてを明確にもたせる。  ・友達の考えを聞いたり、自分の考えを話したりする場面を意識的に設定する。  ・ノートやワークシートに書く活動では、既習漢字を使うようにさせ、家庭学習に継続的に取り組ませる。 |
| 算数 | 学学習にすすんで参加する児童が比較的多いが、繰り上がりや繰り下がりの計算に苦手意識をもっている児童が、各クラス数人程度いる。文章問題においては、「分かっていること」と「聞かれていること」を明確に押さえることで、立式に結び付けることができる。 | 学・計算力に個人差があること。  ・文章問題での立式が難しい児童がいること。 | 学・計算ドリルやプリント、簡単な暗算など、いろいろな計算練習に取り組ませる。家庭学習でも計算練習に取り組ませ、力を付けさせる。  ・文章問題では、「分かっていること」と「聞かれている」にラインを引くなどの手だてをとり、正しく立式できるようにさせる。 | 学・継続して計算練習に取り組ませ、全体的に力が付いてきているものの、個人差が大きい。様々なレベルのプリントを用意するなど、児童の力に合った教材を準備する。  ・既習事項を生かして学習に取り組む児童の姿が増えた。ノートの書き方も工夫して書く児童が増え、学習への意欲が高まっている。その一方で、既習事項を生かせない児童もいる。具体物や半具体物を用いて、考え方を整理し、確実に理解させる。 | ・新宿区の学力調査では、算数の正答率は７６．４％と、全国を１０．１ポイント、区を０．６ポイント上回っている。  ・観点別に見ると、「関心・意欲・態度」「数学的な考え方」「知識・理解」が上回っている。  ・「数量や図形の技能」は区を１．３ポイント下回っている。学習意欲を維持することを大事にしながら、「数量や図形の技能」の定着を図る。計算練習や作図など反復練習を行い、確実に身に付けさせる。  ・学習意欲を維持することを大事にしながら、「数量や図形の技能」の定着を図る。  ・計算練習や作図など反復練習を行い、確実に身に付けさせるために、計算練習や物差しの使い方等、短時間で行える練習問題に定期的に取り組ませる。問題を解くだけでなく、考え方を互いに交流し合う場を大事にし、「数学的な考え方」の力を更に伸ばす。 |
| ３ | 国語 | 調平成28年度は、全ての領域で全国平均を上回っていた。Ｃ層とＤ層の児童を合わせると、全体の２５％だった。「言語事項」については、全国平均は上回っていたが、区の平均より0.5ポイント下回っていた。  学外国籍の児童が数名おり、その児童は、まだ、日本語が定着していない。提出される宿題や課題の状況を見ると、漢字の読み書きや言葉の意味等が十分定着していない児童が見られる。 | 調・「言語事項」について、全国平均は上回っていたが、区の平均より0.5ポイント下回っていたこと。  ・Ｃ層とＤ層が、全体の25％おり、これらの層の学力向上を図ること。  学・漢字の読み書きや言葉の意味等が十分定着していない児童が見られること。 | ・授業で出てくる聞き慣れない言葉は、意味や使い方を確認し、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を心掛ける。  ・毎日、漢字の書き取りや音読の宿題を出し、家庭で読み書きの学習をする習慣を身に付けられるようにする。 | ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を引き続き心掛ける。授業で出てくる聞き慣れない言葉は、国語辞典を使って意味や使い方を調べるように指導していく。  ・毎日、漢字の書き取りや音読の宿題を継続し、家庭で読み書きの学習をする習慣を身に付けられるようにする。漢字については、定期的に漢字テストを実施し、覚えていない漢字の練習をさせるようにする。 | 調平成29年度は、全ての領域で全国・新宿区の正答率を上回っていた。Ｃ層とＤ層の児童を合わせると、全体の２５％だった。  学・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業や授業で出てくる聞き慣れない言葉は、国語辞典を使って意味や使い方を調べる指導を引き続き心掛ける。  ・毎日、漢字の書き取りや音読の宿題を継続し、家庭で読み書きの学習をする習慣を身に付けられるようにした成果が表れているようなので、引き続き指導をする。漢字についても、定期的に漢字テストを実施し、覚えていない漢字の練習をさせた成果が表れているようなので、引き続き指導をする。 |
| 算数 | 調平成28年度は、全ての領域で全国平均を上回っていた。Ｃ層とＤ層の児童を合わせると、全体の23.5％だった。昨年度の区学力定着度調査の結果を見ると、「量と測定」の領域が苦手な児童が多かった。  学提出される宿題や課題、ワークテストの状況を見ると、掛け算九九が十分定着していない児童が見られる。 | 調・Ｃ層とＤ層が、全体の23.5％おり、これらの層の学力向上を図ること。「量と測定」の領域の学力を定着させること。  学・掛け算九九が十分定着していない児童に九九を定着させること。 | ・習熟度別クラス編成によるきめ細かな指導を行う。  ・授業では、巻尺、はかり、リットルます等を用いて実測する活動を多く取り入れる。また、ユニバーサルデザインの視点を取り入れる。  ・毎日、算数の宿題を出し、家庭でも学習をする習慣を身に付けられるようにする。 | ・習熟度別クラス編成によるきめ細かな指導を継続して行う。  ・授業では、はかりを使って物の重さを量る、コンパス、分度器を用いて作図する等の活動を多く取り入れる。また、ユニバーサルデザインの視点を引き続き取り入れる。  ・毎日、算数の宿題を継続し、家庭でも学習をする習慣を身に付けられるようにする。 | 調平成29年度は、全ての領域で全国・新宿区の正答率を上回っていた。Ｃ層とＤ層の児童を合わせると、全体の２７．５％で前年よりも増加した。「量と測定」領域の学力は定着が見られた。  学・Ｃ層とＤ層の児童の割合が増えたので、習熟度別クラス編成の仕方を工夫することで、Ｃ層とＤ層の児童に対して、個別指導の時間を多くとれるようにし、きめ細かな指導を行う。  ・授業では、はかりを使って物の重さを量る、コンパス、分度器を用いて作図する等の活動を多く取り入れた成果が表れているので、引き続き指導をする。  ・毎日、算数の宿題を継続した成果が表れているので、引き続き指導をする。 |
| ４ | 国語 | 調平成28年度は、全ての観点において全国の平均を上回っていた。AB層は７割をしめている。しかし、C層は減っていたが、その分D層が増えた。  学習った漢字を使い文章を書く児童が少なく、既習事項の定着が十分ではない。  学文章のつくりは理解できているが、同じ言葉の繰り返しで内容がまとまらない。 | ・与えられた情報を読み取り、必要な内容を補って文章を書くことや、相手や目的を意識して文章を書くこと。  ・生活の中で書く活動が少ないこと。  ・書き慣れないことや語彙が少ないこと。  ・漢字の読み書きや言葉の特徴やきまりについて理解すること。 | ・「書く能力」に関しては、構成メモを活用した作文指導を取り入れ、書くことに慣れさせる。また、学習感想を書く場面を増やす等、自分の考えを文として表現する機会を設定していく。  ・国語辞典、漢字辞典を使い、言葉の意味を調べさせ、定着を図る。  ・「言語についての知識・理解・技能」に関しては、継続した家庭学習及び小テストを実施し、定着を図る。 | ・説明文の学習で段落のつながりを考えさせたり、読書感想文を書くときに文章の組み立てを意識して書かせたりした。各教科の学習で自分の考えを言語で表現する活動を多く取り入れたことで、自力解決の力が高まった。  接続詞を適切に使えている児童が少ないので、接続詞を正しく使って文章を書く指導を行う。  ・漢字辞典の使い方を学習してから、慣用句や詩の学習等で活用場面を設定している。語彙を調べる習慣を定着させる。  ・週に１度の漢字小テスト、学期末５０問テスト等を定期的に行い、言語の知識の定着に努めた。今後は学習した漢字を活用する力を高めたい。 | ・新宿区の学力調査では、全国平均よりも４．３ポイント、区平均よりも１．６ポイント上回っているが、正答率が５０％以下の児童が１０％ほどいるため、学力下位層の底上げが必要な状況である。  ・国語を中心に書く活動を多く取り入れたことで、書く文章量が増えた。説明文の学習では、事実と筆者の考えを区別して読む活動を取り入れたことで、要点を落とさずに読む力が高まった。  ・日常的に文章を読み込む機会を多くとることや、書くことを習慣化できるような取り組みが引き続き必要である。 |
| 算数 | 調平成28年度の調査では「量と測定」は1.4％、「図形」１％、新宿の平均を下回っている。  調平成27年度と比較すると、A層の割合が減り、C層の割合が増えている。平成28年度はAB層が６割でC層だけで約３割になっている。  学基本的な知識・技能が課題となる児童が見られる。 | ・問題を読み、何を聞かれているのか理解すること。  ・余りがない割り算は九九を使い解くことができたが、余りがある割り算の計算の基礎を定着させること。 | ・家庭学習で計算ドリルを活用し、知識・理解の習熟を図る。  ・文章問題を繰り返し取り組ませ、アンダーラインを引きながら立式させる授業をつくっていく。 | ・算数の授業と並行して計算ドリルによる習熟を行ってきた。基本的な計算力が付いている児童が多いが、支援を必要とする児童も若干名いる。特に、概数については問題の意味を間違って捉えている児童も多いので、今後も家庭学習や朝学習を使って復習をし、知識理解の定着を図る。  ・文章問題で問われていることが読み取れず、誤った立式をする児童が見受けられる。問題文を繰り返し読んだり、「分かっていること」「聞かれていること」を整理したりして、問題文を正しく読み取る力を高めたい。 | ・新宿区の学力調査では、全国平均よりも２．９ポイント上回ったが、学力下位層の底上げや中間層の知識・技能の定着を図る必要がある。  ・基礎的な学力の定着を図るために、引き続き家庭学習の協力、補習学習や習熟の程度に応じた指導を工夫していく必要がある。  ・数学的な考え方を育てるために、話合い活動を取り入れた問題解決の活動を増やしたい。 |
| ５ | 国語 | 調平成28年度の正答率は全ての領域で全国平均を上回っていた。区の正答率と比べると、「読む能力」が0.8％下回っていた。誤答分析を見ると、登場人物の気持ちの読み取りで20％の児童が読み取れていなかった。  調平成27年度の調査では、「書くこと」に課題があるとされていたが、平成28年度の調査では、「書くこと」の正答率が全国平均よりも8％、区の平均よりも5％上回った。  学授業中のノートやワークシート等を見ると、習った漢字を使って文章を書くことが苦手な児童が多い。漢字テストにおいても、新出漢字は書けるが、既習漢字の習得に課題のある児童が見られる。 | ・漢字の読み書きが定着していない児童が多いこと。  ・テストでは同音の漢字を当てて書いてしまう児童が多いので、漢字を「ことば」として理解していくこと。  ・Ｃ層とＤ層が全体の32％となっているため、授業の中でどの層にも分かりやすいユニバーサルデザインの授業を取り入れていくこと。  ・自分の意見を相手に伝えることに抵抗を感じている児童が多いこと。 | ・家庭学習はもちろん、朝学習の短い時間に集中して学習する習慣を付け、学習に取り組む姿勢を身に付けられるようにしていく。漢字テストを毎週行い、自分自身の学習定着度を理解できるようにしていく。  ・授業の中で、自分の思いや考えを友達に伝える場面を確保していく。少人数での対話から始め、様々な形態でコミュニケーションをとることで、楽しみながら学習に取り組むことができるようにする。  ・学習のねらいを明確にすることで、何をしたらよいのかを児童が理解し、主体的に学べる授業を作っていく。 | ・東京都学力調査の結果から、国語が東京都の平均を下回っていた。特に、書く力や言語事項については東京都の平均より３％下回っていた。  ・週に２回の漢字テストを継続的に続けたり、辞書を引く機会を設けたりすることで、語彙の習得や漢字の定着を図っていく。書くことについては、百文字作文を始めた。文章を書くことに苦手意識をもっている児童が多く、文章の書き出しで止まってしまうことが多い。書くことに慣れる活動から始め、少しずつ書くための技術を習得できるよう段階的に指導していく。  ・「読むこと」についても、長い文章が出てくると読む意欲がなくなってしまったり、理解できなかったりすることが多い。物語文や説明文の読み方（技術）を指導することで、どのように読んでいったらよいかを児童が理解し、自分自身の力で読めるようにしていく。また、話し合い活動を通してお互いに学び合い、様々な考え方や感じ方があることに気付かせ、集団で学ぶ楽しさを感じさせていく。 | ・平均正答率は、新宿区の正答率よりも下回っていた。観点別に見ると、特に話す・聞く能力、読む能力の正答率が低く、大きな課題となっている。  ・全体的に「読む能力」の向上が必要であるため、指導を工夫し、学年全体の読解力向上を図っていく。何を読み取ったらよいのか読みの視点をもたせる指導をしていく。文章の中から根拠となる事柄を探すことができるように、学習を積み重ねていく。また、文法指導も重点的に行う。主語と述語の関係や、修飾語の役割など基本的な言葉の指導を重点的に行う。  ・一時間で何を学習するのか、学習のめあてを明確に提示し、児童がめあてを理解し意識しながら学習を進めていく。Ｃ層Ｄ層の児童へは、物語のあらすじを一緒に確認したり、学習のヒントとなる声かけをしたりすることで学力向上を図る。 |
| 算数 | 調平成28年度の調査では、算数に対する「関心・意欲・態度」が全国、新宿区を下回っている。また、Ｃ層Ｄ層の児童が学年の44％と多く、算数に苦手意識を感じている児童が多い。一方で、Ａ層は42％と２極化している。  調領域別に見ると、「図形」の正答率が全国、新宿区より4％下回っている。誤答分析を見ると、「垂直・平行と四角形」の問題で誤答が多く見られた。  学ワークテストを見ると、問題を丁寧に読まなかったり、問題の意味が理解できなかったりするために解けない児童が多い。 | ・問題を読んで、何を理解できて、何を求めなければならないのかを整理できるようにしていくこと。  ・苦手意識を感じている児童が多いので、類似問題を解く等の活動を通して自信を付けていくこと。  ・習熟が遅れている児童も、５年生の授業が理解できるように、補充したり、習熟度別の授業を工夫したりしていくこと。 | ・図形などの学習では、具体物を取り入れるなど、一つずつの学習を操作しながら理解できるよう工夫していく。  ・家庭学習では、計算ドリルを繰り返し行い、学習を定着させていく。  ・分からないところは積極的に質問をし、みんなで学習していく雰囲気をつくっていく。  ・見直しをする習慣を付け、計算や単位の間違い等に気を付けるようにしていく。 | ・東京都の学力調査の結果からは、全体的に５～６％ほど上回っている。しかし、全体の分布を見てみるとA層が全体の４０％でD層が２２％と二極化してしまっている。  ・D層の児童については、基礎・基本的な学習が身に付いていないため、問題に取り組むことができない状態である。習熟度別の授業の中で、基本的な知識・理解を確実に身に付けさせることができるよう、スモールステップで学習に取り組めるようにしていく。日々の宿題も、その日の授業の復習や、類似問題に取り組ませ、一つ一つの学習を理解させていく。  ・授業で学習したことを、既習事項として活用していけるよう、学習のつながりを感じさせることができるよう指導していく。 | ・新宿区で行われた学力調査の結果から、観点別に見ると、数学的な考え方や知識理解が平均よりやや低く、改善が必要である。領域別では、図形が４ポイント下回っていて、今後重点化すべき課題となっている。  ・問題の題意をとらえることができるように、普段の授業から問題分析を行っていく。また、反復練習の時間を毎時間５分でも確保し、基礎的基本的な知識や技能を身に付けられるようにしていく。図形を正確に描けるように、丁寧に指導していく。  ・学習の問題を一人一人がしっかりとらえられるよう、明確に提示する。既習事項を活用して、一人ずつ自分の考えをもつ時間を確実に確保する。自分の考えを説明する経験を重ね、学習内容の理解を深められるようにする。 |
| ６ | 国語 | 調全ての観点・領域で新宿区の平均を上回っており、概ね良好な状況と言える。二極化傾向にあった分布も全体的に底上げができてきている。しかし、AB層で8割を超えているが、4年からの経年変化を見ると、CD層の底上げでB層が増えているが、A層の割合は変わっていない。  学学力調査では、他の観点よりも高い書く能力であるが、実際の文章表現では、文章のねじれや主述が呼応していないなど、課題が多い。 | ・主述や修飾・被修飾などを的確に押さえる力や叙述を適切に捉える力。  ・より正確な叙述の読みや文章の組み立てや構成をはっきりさせて話すこと。  ・ねらいを明確にした指導。  ・生活上の言語活動から書く活動が少ないこと。  ・書き慣れていないことや表現の仕方や言語事項への指導機会が少なく、正確で適切な表現ができない児童が多いこと。  ・漢字などの言語事項も習得率の低い児童ほど、家庭学習の定着していないなど、日常の学習習慣が身に付いていない児童の学力低下。 | ・文章の読み取りでは、叙述を押さえる視点を明確にした指導を行い、根拠となる叙述や関連のある表現を押さえながら読む学習を取り入れる。また、文法的な言語事項の指導を、様々な領域の学習の中で意図的に取り入れていく。  ・短作文指導を年間指導の中に横断的に取り入れ、書く機会を増やすとともに、ポイントを絞り指導内容を明確にした文章を書く練習を繰り返す。  ・漢字は「意味」、「読み方」、「字形」の指導のシステムをつくり、年間を通して行い、使える文字として習得させる。  ・語彙を増やすために、日常的に辞書を活用する習慣づくりを行う。 | ・全国学力・学習状況調査結果から、言語事項については、都や全国の平均を７ポイントほど上回っており、学力が定着してきていることが分かる。書くことについても、同様に、各平均を上回っているが、他の評価の観点と比べると、正答率の割合の差が小さくなっている。  ・日常的に取り組んできている語彙指導や漢字の習得は一定の成果を上げることができたが、書くことについては、機会を増やすだけでなく、論理的な展開や相手や目的に応じた意図的な構成や表現など、指導の意図をより一層明確にした指導を進める必要がある。  ・指導事項を明確にした短作文指導を取り入れるとともに、卒業文集など、児童にとって書く必然性のある具体的な場面を設定した学習を計画していく。 | 調全ての観点・領域で新宿区の平均を上回っており、概ね良好な状況と言える。観点別では、書く能力が他と比べて大きく上回っている。中間評価を受けて表現指導の改善を図り、書く機会を多く設定したことが向上につながったと考えられる。５年からの経年変化を見ると、C層D層の割合には変化がなく、A層の割合は増えている。低学力の児童が固定化している課題は改善されていない。既習内容の定着を図ることができていない児童にとっては、学年進行に伴う学習内容の難易度が上がることに追いつくことが難いため、家庭学習も含めて家庭との協力体制を図るとともに、学びのユニバーサルデザイン化を徹底していく。  学指導事項を明確にした学習を展開したことで、学習方法を身に付けることができ、学力の定着につながっている。日常的に丁寧に書き込む場面を多く設定することで、書き慣れたこともあり、記述量が増えたことも学力向上につながっている。漢字練習など、家庭学習を活用できたことで定着を図ることができている。 |
| 算数 | 調全ての観点・領域で新宿区の平均を５～10ポイント程度、上回っており、概ね良好な状況と言える。しかし、4年からの経年では、AD層の割合は変わらず、B層がやや低下しその分C層が増えている。学習内容の難しさとともに学習理解が難しくなった児童が４名いることが分かる。また、D層の13％は固定化していて、系統性のある教科での底上げの難しさがある。  学　全体的な傾向ではなく、領域によって極端に学習成果が落ちる児童がおり、習熟度別クラスに分かれた際に、十分な理解度の把握ができず、適正なクラスに所属できていないことがある。 | ・中間層に位置する児童は、内容が抽象的で数学的な思考力が必要になると理解が難しくなること。 | ・家庭での学習状況に応じた家庭学習を設定し、家庭の協力を得ながら、授業内容の基礎的基本的内容を習得するための習慣づくりを行う。  ・ユニバーサルデザインの視点に立ち、習熟度に応じた適切なねらいを設定し、問題の設定と問題解決過程をスモールステップ化するとともに、CD層の児童には、１時間に獲得させる内容を絞り込み明確にする。また、その他の学習の妨げとなることについては、情報制御を行い排除するなどして学習内容の習得を図る。  ・単元指導の中で、学習感想や習得状況を把握するための小テストなどを適宜取り入れることにより、児童自身が客観的に学習理解度を把握させる。 | ・全国学力・学習状況調査の結果からは、基礎的・基本的な学力については、どの観点も全国・都の平均を5～10ポイントほど上回っており、活用についても10ポイント以上上回っており、おおむね満足できる状況と言える。また、中間層から上位層へ移行した児童も多くなった。  ・D層の８名ほどについては、学力の定着が図られておらず、相変わらずに極化傾向にある。  ・D層の児童には５年生までの既習内容について、課題となっている点について東京ベーシックドリルへの取り組みを家庭に促し、家庭学習の習慣を確立する。  ・学習内容を児童の習熟の度合いにより応じたものにし、基礎・基本の習得、活用能力の向上などねらいを明確にする。 | 調全ての観点・領域で新宿区の平均を５～10ポイント程度、上回っており、概ね良好な状況と言える。しかし、５年からの経年では、C層からB層への引き上げができた反面、A層がやや低下した。また、D層は固定化している。１単位時間での指導の工夫でその場の理解を図っても定着していかない。系統性のある教科での底上げは、学年が進行するほど難しいので、より一人一人の課題に応じた手立てを講じる必要がある。  学 基礎学力定着が低い児童ほど、家庭学習の習慣作りが難しく定着を図れない。D層の学力向上のためには、家庭の協力を得ながら、家庭学習習慣の確立や学校として補習時間の確保などが必要である。また、学習内容を絞り込み、系統性を踏まえた復習を授業の中に取り込むなどして、繰り返しの指導を充実させていく必要がある。学力差が大きいので、指導内容や方法を習熟度に応じて適切に工夫した指導計画を立て、習熟度別少人数指導を有効に活用できるようにしていく必要がある。 |
| 音楽 | 学歌唱、合奏については意欲的に取り組む児童が多い。  読譜力の定着に課題が見られる。音楽づくりなど自分の発想を生かしたり、考えを述べたりする学習に苦手意識をもっている児童がいる。 | | ・技能定着を図るための常時活動の不足。  ・音階やリズムなど基本的な譜読力。  ・鑑賞や音楽づくりなどで、自分の考えや思いを表現する力。 | ・比較的短時間で行える常時活動の工夫。（リズム打ちや簡単譜読チャレンジなど）  ・ペアやグループでの意見交換など、互いを高め合える活動の充実。 | ・常時活動を続けていることで、簡単なリズム譜を読めたり、拍感がしっかりしてきたりする児童が増えた。今後も継続していく。  ・常時活動を、リズム伴奏づくりなどの音楽作りの活動につなげ、学習を発展させていく。 | ・常時活動により、拍や簡単なリズム打ちなどはできるようになってきた。今後は音階や音鑑についても深めていく必要がある。  ・創作や鑑賞で、自分の考えを伝え合う活動を取り入れた。考えを言葉で少しずつ表現できるようになってきているので、次の段階として、学び合いを様々な場面で生かせるようにしたい。 |
| 図工 | 学表現活動や、鑑賞活動については意欲的に取り組む児童が多い。 学年が上がるにつれ、平面作品、特に発想を生かした学習に苦手意識をもっている児童がいる。 | | ・低学年のうちから、多様な表現に挑戦させ、情操を養うこと。  ・他の友達の作品や、著名な画家の作品を鑑賞することで、多様な表現があることを知り、豊かな発想を糸口として、表現する楽しさを感じさせること。 | ・造形遊びの時間を確保し、様々な材料を経験させる。鑑賞の時間を十分に確保し、付箋を用いた子ども同士の意見交換を行う活動を取り入れる。 | ・新しく使う材料に対して試す時間を十分に確保し、児童が試しながら表現を選択できるように設定することで、既習事項を生かしながら活動する児童が増えた。  ・付箋を用いた交流のあと、振り返りの時間を設定し児童の発言を教員側が認めることで、表現する楽しさを味わう児童が増えた。それぞれ継続していく。 | ・様々な素材を試す時間を十分に確保することで、児童が自分自身の思いに合わせた表現活動をすることができた。発達段階に応じて、適切に用具を扱えるようになった。片づけ方に課題があるため、図工室を整備し、児童が片づけやすい空間をつくる必要がある。  ・付箋を用いた鑑賞活動、児童が自由に発言できる振り返りの時間を設定したことは、児童の多様な価値観を育成することに効果的であったので継続していく。 |
| 特支 | 学病気療養による転籍のため、都度前籍校での学習状況や定着度の確認が必要である。 | | ・的確に実態を把握し、個に応じた学習環境や教材の工夫・改善を図ること。 | 日常的に個が取り組みやすい環境を整え、学習定着度を把握し、個に応じた教材を工夫し、指導を行う。 | 学習環境整備や学習空白や定着度を把握し、前籍校と連携をとりながら進めている。個に応じた指導を行うことで習得・定着を図っていく。 | 一人一人の学習定着度を把握し、課題を明確にして個に応じた指導を行うことができたので今後も継続していく。 |

　　　　　調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況